

2018 明治安田生命 J2 リーグ 第 19 節 vs. 町田ゼルビア

6/17 (日) 18:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2018岐大通2018岐
通2018岐大通2018
大通2018岐大通201
岐大通2018岐大通2

2018J2 ■順位表■第18節/暫定

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

【#は 2 試合、*は 1 試合少ない】

1	福岡	35p	+11	27	16	A●
2	山口	35p	+8	33	25	
3	大分	34p	+9	33	24	A●
4	町田	32p	+9	32	23	
5	松本	31p	+9	24	15	HO
* 6	岡山	29p	+6	20	14	AΔ
7	岐阜	28p	+7	25	18	---
8	横浜FC	28p	-1	24	25	H●
9	大宮	25p	+3	25	22	AO
# 10	甲府	24p	+10	25	15	H●
11	山形	24p	0	21	21	
* 12	東京V	23p	+3	20	17	AΔ
13	徳島	22p	-2	14	16	HΔ
14	千葉	22p	-3	30	33	AO
* 15	新潟	21p	-1	19	20	HO
16	水戸	21p	-5	18	23	HO
17	栃木	20p	-7	18	25	HΔ
18	熊本	20p	-11	23	34	AO
* 19	金沢	19p	-4	19	23	H●
20	京都	15p	-10	16	26	A●
21	愛媛	14p	-13	11	24	AO
22	讃岐	11p	-18	12	30	AO

次回HomeGame

第20節 vs. レノファ山口

6/23 (土) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

湯麺 戸塚

店主: 戸塚 哲也

瑞穂市穂積 1596-4

11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)

お休み情報 twitter: @Tanmen_Tozuka

☆☆☆各務原店もよろしく!!☆☆☆

today's guest : 町田ゼルビア

2017 J2 11勝17分14敗 勝ち点50:16位

直近の対決と結果

2017/07/22

J2-24節@長良川

岐阜 0-2 町田

ここ 3 試合の公式戦の結果

FC岐阜		町田ゼルビア	
2018/06/10 J2-18節@ピカスタ 讃岐 0-1 岐阜		2018/06/10 J2-18節@鳴門大塚 徳島 1-2 町田	
2018/06/06 天皇杯2回戦@NDスタ 山形 2-2(Pen.4-2) 岐阜		2018/06/06 天皇杯2回戦@Cスタ 岡山 0-1(延長) 町田	
2018/06/02 J2-17節@長良川 岐阜 4-0 水戸		2018/06/02 J2-17節@町田 町田 2-1 愛媛	

●5月の5試合を4勝1敗と好成績で終えたFC岐阜。そして迎えた6月の初戦、6/2(土)第17節・ホーム水戸戦は、PK 2本を含む4本のゴールで攻撃陣が大活躍。守備面でも危なげなくクリーンシートに抑えて4-0での勝利。今季初の3連勝とホーム3連勝を達成し、イベント関連も交えて多くの来場者を魅了させる結果となった。そして中3日で行われた6/6(水)第98回天皇杯2回戦は、アウェイで山形との対戦。FC岐阜は前半に先制されるが、#9山岸祐也、#14風間宏矢のゴールで逆転に成功する。しかし、試合終盤に追いつかれて2-2に。そして延長戦となり、決着がつかずにPK戦に突入して2-4で悔しい敗戦。FC岐阜の今年の天皇杯は幕を閉じた。そして再び中3日であウェイに赴き、6/10(日)第18節は讃岐と対戦。厳しいコンディションではあったが、クラブ記録を更新する6試合連続ゴールとなる、#11古橋亨梧の得点と、粘り強い守備で1-0の勝利。今季初そしてクラブ記録タイとなる4連勝を達成した。

この結果、FC岐阜は順位を更に上げた。試合中断やルヴァン杯の影響で未消化試合を残すチームがあり暫定順位ではあるものの、7位という成績は、第18節経過時点でクラブ史上最高の成績だ。9位・大宮~19位・金沢の、勝ち点差6以内の11チーム大混戦から、頭ひとつ分だけ抜け出した格好になる。そして、目の前・勝ち点差1に、(1試合残しているが)6位・岡山が見えている。ついに、プレーオフ圏内が、目の前にある。

だがしかし、ここから上は上位グループ、「優勝争い・プレーオフ争い」の世界だ。直近の2試合で2連勝しても、岐阜の順位は9位から7位にしか上がっていない。勝ち続けるチームだけが生き残る厳しいレース。そして油断すれば、簡単に再び中位の大混戦に取り込まれて、大きく順位を下げてしまう可能性だってある。そして、このホーム2連戦は、上位チームとの直接対決になる。改めて僕は、目の前の1試合に集中し、最後まで全力で勝利を目指す姿勢が問われることとなるだろう。

さて、その上位対決となる初戦の対戦相手はFC町田ゼルビアだ。16シーズンにJ2に復帰して、1年目は7位。昨シーズンは16位と成績を落としたが、相馬直樹監督6年目体制となる今季は現在4位。直近5試合でも3勝1分1敗と好調をキープしている。町田との通算対戦成績は、岐阜の2勝1分3敗4得点6失点。昨季は4/1(土)第6節・アウェイ戦では、#24難波宏明のヘッドが決勝点となり1-0で岐阜が勝利したが、7/22(土)第24節・ホーム戦では、連携のミスから2点を奪われ、0-2で悔しい敗戦。今シーズンの岐阜は違うということを、町田に勝利して証明したい。

町田で最も注意すべき選手には、現在5得点を挙げている#30中島裕希だろう。町田は、セットプレーやロングボールからの得点が多く、その競り合いに長けている#30中島は、3試合連続3ゴール中。そして、#9鈴木孝司と#14吉濱遼平が4ゴールで続く。まずは、彼らへのボールの供給源を断つことが重要だ。また、町田にはかつて岐阜に在籍していた、#5深津康太(07~08年)と#6李漢宰(11~13年)がいる。彼らの守るゴールを、5月のJ2月間MVPも獲得した#11古橋亨梧が、J2記録タイとなる7試合連続得点で撃ち崩す姿を見せて欲しいところだ。

梅雨に入り、岐阜も蒸し暑い日が続く。今節からナイターシーズンに入るが、それでも選手たちの体力の消耗は厳しくなるだろう。ましてや上位対戦、最後まで集中を切らさずに全員が走りきることが、勝利への最低条件だ。だからこそ、勝利を目指す選手たちの背中を押す、その一歩を踏み出させる、僕らFC岐阜サポーターの拍手と声援が必要だ。まだ何も手にしていない挑戦者として、上位・町田と最後までひたむきに戦おう。その先にある勝利を、クラブ史上初となる5連勝を目指して。(ささたく)



「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜日

投稿募集 !!

gidaidohri@gmail.com

【第17節】岐阜4-0水戸

●昨年J1チームだった新潟・大宮を連続撃破。大宮戦は『完勝』と言って良い試合、新潟戦は、今季初の逆転勝利……というか、昨年も逆転勝利なんてほとんど経験していないような（苦笑）。さて、順位表も“左半分or上半分”と見慣れない位置（苦笑）に来て、そこで3連勝を懸けての対戦相手が19位の水戸。こーゆー一時の水戸さんは怖い……しかも、多めにイベント仕掛けてる時に限って、試合で“やらがして”しまうような記憶が強くて、不安な気持ちで試合を迎えたのは、僕が心配性だからなのでしょうか（苦笑）。

岐阜は右WGに、前節で負傷した#7パウロに替わって#9山岸祐也がスタメン。これまで出場した試合では、少し空回りしていたような感じがしていたのだけれど、今日は違った……というか、こーゆー活躍を期待していたんですよ僕は（笑）。#7パウロほど速くはないけど、その代わりに高さ&パワーがある選手。積極的に右サイドで仕掛けて、守備でも前線からボールを追いかけてチームに貢献する動き。1点目のPKも、水戸ゴール前での混戦で積極的にヘディングシュートを撃ったから、相手選手の手当たった訳で。2点目のPKも、#9山岸が水戸のゴール前に詰めてたから奪えた訳で…まあアレは水戸の#1GK本間が完全なポカだったけど（苦笑）。それと、ここ数試合で#10ライザの動きがどんどん良くなってると思う。混戦でのボールの貰い方や奪い方、視野の広さは、さすが当時アマチュアとはいえ、クラブW杯出場経験者と言うべきか。あとはゴールが欲しいところだけれど、無理して得点を狙って、今のリズムを崩しちゃうのも怖いかな…。そして最近の岐阜は、いわゆる“ファーストディフェンダー”のボールの追いかかけ方・ボール奪取がかなり激しくなってる、またそれが良く成功するなあとは僕が感じているのだけれど、3点目は、まさにその“岐阜のショートカウンター”が炸裂。水戸のPA内で水戸の選手を複数で追って、ボールを奪って、ゴール決めるなんて、水戸の選手たち、心が折れるよなあ…（苦笑）。#11古橋亨梧のクラブ新記録となる5試合連続ゴールも、今季初得点となる#9山岸の2ゴールも素晴らしい。これでお腹一杯…と思ったら、#19藪内健人のJ初ゴールですよ。しかも個としてのスピードとパワーで奪ったゴールですよ（笑）。これは楽しみな…というか、期待していた選手が遂に出てきたなあ、というデザートがついて、そして仕上げにクリーンシートの4-0で大勝のフルコースですよ。これまで、例えば今季ですと松本戦や新潟戦でも、『我慢して我慢して…ドーン！』みたいな勝利ばかり（笑）だったから、あまりに当然のように勝つという試合では、あまり『よし、勝ったああ！』という感慨は深くないのですね（大苦笑）。いやもちろん勝利は嬉しいんだけど、どんな顔していいのか分からないです（笑）。

長良川でロスタイムに歌い出す『アイダ（勝利のチャント）』も心地よく、まさに大宮戦を上回る『ザ・完勝』。もちろん今節の結果は、たまたま起きたのだと思って気持ちを切り替えますが、イベント絡みで、そしてJ1中断期間で集客を仕掛けているクラブの思惑通り(?)となった試合結果は、しみじみと良かったなあと思うのです。このお客さん達を逃がさないためにも（笑）、ホーム戦では、どんどん勝って欲しいです！（ささたく）

●こんなにドッシリ構えて試合見てられたのはいつ以来だろう（笑）といった感じの試合でした。ようやく山岸にも2ゴール、交代で入った藪内にもプロ初ゴール。控え選手たちの突き上げでどんどんチームを活性化してってほしい。この試合の3点目が象徴的だったのだけれど、このところ点を取れている要因として、前線からの積極的な守備が功を奏しているのは間違いない。山岸のゴールが決まった後、ファーストディフェンスに行った古橋が大きくガッツポーズしていた。きっと練習からの形がピタッとハマったんだろうな、と。

SKEファンの皆さんにも多数ご来場いただき、本当にありがたい限りです。やはり華がありますね彼女たちは。いつかまたイベントジョイントできますように。

今年も開催されたアニ×サカ。いつかは公式行事ではなくなってしまうかもしれないけれど、サポ同志の交流はずっと長く続いていてもらいたいと思います。ズラッと並んだゲーフラ、今年も壮観でした。

（岐阜の誇り）

●この日も好天に恵まれたメモリアル。しかし、その青空の下に出現したのはごった煮状態のイベント群というか、カオスな世界？とはいえ、町音葉嬢を始めとするSKEメンバーのライブはもちろん、戦車の模型も、アニ×サカのゲーフラ祭りも、それぞれがキャラの立ったイベントで、これをいっきにやってしまうウチのスタッフが素晴らしい。しかも、ほぼ満腹状態で迎えたメインのイベントがアノ結果ときたもんだ。それが、待望久しかった山岸の移籍後初ゴール&ダメ押しの一撃。キョーゴの5試合連続ゴール、そして藪内のJ初ゴールと、これでもかっ！てくらいデコレートされて、「これ以上、いただけません。もう、おなかいっぱいです。」状態にさせられてしまった。

そのうえ、アディショナルタイムを含めて、5分以上？続けた『アイダ』の長回し。いつもなら、勝利が確定した後の定番であるチャントを、試合中に始めるには思い切りが必要だ。なぜなら、いったん始めたら止めることができないから。まあ、この試合のように4点も差があれば、特別に難しいことではないかもしれない。かつて、熊谷での天皇杯・千葉戦で、リードはわずか一点なのに『アイダ』を始めたような覚えがあるが、記憶違いかな？とにかく、このチャントのおかげで、気が緩むことなく、高揚感をキープしたまま歓喜の時を迎えることができた。コール・リーダー、ナイス・チョイス！グッジョブ！！

とはいえ、試合内容を振り返ると、大宮戦ほどの圧倒した感覚はなく、序盤の水戸の攻撃を耐え切り、先制点を与えなかったことも勝利の要因の一つだろう。それから、あえて言うてしまうとGKの差、もあつたかな？正直申し上げて本間幸司選手のプレーには涙を抑えること能わず、でした。もう、41歳か。せつかく、国営放送でドキュメンタリーが放送される日だったのに……。だから、2点目のPKの際に、カンタンに逆を取りながら、読んでても取れない右上隅に決めたキョーゴの優しさに涙が禁じ得ませんでした。でも、だからといって、山岸が優しくないわけじゃない。足首の角度一つでホンマさんを転がした度胸とテクニック。今季無得点だったにもかかわらず、焦ることなく余裕で決めて、さらに追加点まで挙げちゃった山岸に乾杯！「緊張したことがない。」ってホントかよ。スゴいな。そして、忘れちゃいけない藪内も初ゴール、おめでとう！長いサイドチェンジをトラップした瞬間、「あ、これはシュートまで行くね、打つね、来るよ、コレッ！」とゴールの予感が走った。いや～、気持ちよかったあ～。久々の、めったに体験できない感覚を味あわせてくれてありがとう！これから、どんどん点取ってください！

あ、最後に一言。ウチの緑と水戸の青って、ふつうに見辛くなかったですか？（ぐん、）

●アイドルグループ『SKE48』メンバーのイベントもあり、水戸戦恒例の『アニ×サカ』イベントもあり、試合前から長良川の盛り上がりはむせ返るよう。でも、長良川的主力商品はあくまでサッカー。前菜がどれだけ派手で美しくても、肝心のメインディッシュが貧弱では商売として話にならない。だった、の、だけれど。杞憂でしたね。控えめに言っても完勝だった。

正直に言って、これまで右FWを張っていたパウロの負傷は心配だった。代わりに入るのは山岸だが、パウロとはタイプが違う。同じように機能するのだろうか……と。実際のところは、同じようには機能しなかった。その代わり、まったく

違う化学反応が生まれた。ドリブル得意のパウロは足下でもらってそこから仕掛ける。でも、山岸は水戸の左SB平野の裏をひたすら狙う。あるいは、山岸が平野を引きつけている間に阿部が追い越して平野の裏を狙う。そのどちらも行かないときは、コーヤが斜めから入ってきて平野の裏を狙う。イメージとしては、ちょっと恐れけどズメバチが獲物に襲い掛かるような。FC岐阜の試合を観てかなりの時間が経つけど、ここまで明確に特定のある選手を弱点として精密集中砲火浴びせるのを初めて観た。そして、後半になってライザが故障で下がると、右の山岸がセンターへ、ライザの交代で入った藪内は左、そしてここんこキレッキレのキョーゴが左から右にまわって平野の前へ。もうね、もうね、「ここまでやるか？」って感じ。

PK 2発で試合を優位に進められたのもあるけれど、そのPK 2発だって「岐阜がちゃんと攻め込んでいた」から得られたものだ。3点目は、ここ最近の岐阜の得点パターン。最前線で複数の攻撃手が一気にプレスをかけて相手の最終ラインのミスを誘い、奪ったボールをそのままフィニッシュまで持っていくというもの。「超攻撃的守備」とでも言おうか。

あれ？なんか違うぞ。今年の岐阜はどうだったろう？ボールをキープしているので攻撃の時間は長いけれど、ボールのキープ・ゾーンは自陣の安全区域なので、有効な攻撃となるシュートまで持っていけない。無理して形容すれば「超守備的攻撃」だった。この、鮮やかな転換はどこからどうして生まれたか。東海地区では販売していないピンク色の新聞に拠れば、長島ヘッドコーチがディフェンス・コーディネーターとして岐阜の守備組織をしっかり作り直した、とのこと。なるほどなるほど。ようやく、攻撃につながる守備のビジョンが目に見えるカタチになった。これなら、このサッカーが出来るなら、J2で戦える。そんな気がした。

FC岐阜は、リアリスト・サッカーの西の雄・大分トリニータとはギリギリ勝ち負けの試合が出来た。さあ、リアリストの東の雄・町田ゼルビア、そしてセンサーが作動すればパン！パン！とリレー回路が一気に働いて結果が出来上がる工場のようなサッカーを仕掛けるレノファ山口と戦う2週間がやって来た。現在、最高の調子で彼らを迎えるぼくらのFC岐阜は、どう戦う。どう戦える。もう、愉しみて愉しみてしかたがない。

(吉田鑄造)

【天皇杯】山形 2-2(pen.4-2) 岐阜

●まずは「泣くな、賢星！次、やり返せ！今月末にやり返せ！！」と言っておく。アレはしょうがない。くやしいが、相手のGKをホメるしかない。三島もこれからだ。まずは、日曜日の讃岐戦で見せてくれ！

試合の展開的には、考えられるケースの中の一番残念なシナリオにぶち当たってしまったけど、一発勝負はこういうこともある。逆に、ビクトルが後半終了間際のPKを止めてくれなかったら延長戦もなかった。さらに、守護神はPK戦でも一本止めてくれた。それでも結果が出なかったんだから仕方ない。前半の、悪くない流れからの思わぬ失点。それでも、走り続けた山岸の同点弾、それに続く宏矢のFKでの逆転弾。その逆転した流れのまま逃げ切りたかった。そこは反省。だけど、試合に負けたワケじゃない。次のステージへ進む切符を手に入れることが出来なかっただけだ。

それにしても、半年ぶりのNDスタは、遠征サポにはキツイ展開。去年の雪といい、アウェイの洗礼が過ぎるんじゃないか？(苦笑)。試合前の待機中に運営担当の方と交わした雑談の中で、昨季最終戦の雪は地元の方々も「11月の雪なんて、何年ぶり？」とビックリしていたとのこと。いや、ウチの山形遠征は合わせて四回も雪絡みなんですけどね。何の因果かな？次回からは、もう少し観戦しやすい季節に設定していただくようお願いします。

あと、来季以降の天皇杯も平日にやるなら、できるだけ近場の相手との対戦を希望。切に希望します。よろしくお願いします！それと、ライザが無事でありますように……。(ぐん)

【第18節】讃岐 0-1 岐阜

●ホーム・水戸戦の後に中3日で山形に飛んで、天皇杯2回戦。その後に再びアウェイで讃岐戦。それだけでも十分に強行日程だと思っていたけれど、天皇杯2回戦で#10ライザが負傷退場。延長戦はおろかPK戦までやった上で、悔しい敗戦。そして相手は現在最下位とはいえ、「塹壕戦」、つまりがちり守ってわずかなチャンスに懸ける戦術の名手・讃岐。本来ならスタメン入りするであろう#19重松健太郎や#20原一樹がベンチにいる時点で『ウチは最後に勝負に出ますよ』って言われているようなもので(苦笑)。中3日のアウェイ連戦で、体力的に不安が残る岐阜にとっては、手強い相手になると僕は感じていた。

そして実際、試合序盤は、守備を固めると思っていた讃岐に押された。そこを凌いで攻勢に転じる岐阜だけれど……まあ素早く綺麗にがちりと2列の守備ブロック固めますね讃岐ってば(苦笑)。岐阜の攻撃を固い守備で弾き返す讃岐と、讃岐のカウンターを素早い攻守の切り替えで抑え込む岐阜。両方に決定機はあったけれど、無得点で終わった前半戦。このまま我慢比べになると、讃岐の想定する試合展開に巻き込まれてしまうかも…そんな不安を僕は感じていた。

しかし。そんな不安を文字どおり“一蹴”してみせたのが、我らが若きエース、#11古橋亨梧！#9山岸祐也が右サイドで相手DFと競り合って入れ替わり、フリーになると見るや、左サイドから斜め(いわゆる“ダイアゴナル”ってヤツですね)に走って行って、中央の#14風間宏矢と交差する形で相手DFのマークを振り切ってDFラインの裏に抜けだして、タイミング良く#9山岸が出したスルーパスを柔らかいワンタッチで讃岐ゴールに流し込んで先制点！讃岐の選手が『オフサイド？』ってセルフジャッジしてたんで、僕はゴールを確信するまでに数秒かかりました(苦笑)。いや、実に見事な連携ゴールでした。そしてクラブ記録更新となる6試合連続ゴール！そーいや、5月最後となる新潟戦に、原博実氏が観に来てたとの情報で少し焦ったけど、彼は『日本サッカー協会技術委員会強化部』ではなくて『Jリーグ副理事長』として、5月の月間MVPの認定のために来てたっばいですね。まあ、クラブ初の月間MVP受賞で#11古橋亨梧の名が知れ渡るようになった意味では、あまり変わりがないような気がします(苦笑)が、それでも、キョーゴおめでどう！！

閑話休題。しかし、この後の讃岐の攻撃は迫力がありました。作戦通り(?)、試合終盤に攻撃の選手を次々と投入。そこからの岐阜は防戦一方。#25ビクトルのビッグセーブをはじめ、足が重くなっていたであろう岐阜の選手たちが、粘り強く讃岐の攻撃を食い止め、跳ね返し、1点を守る。そして、その攻撃を凌ぎきって、1-0での完封勝利。前節に比べると、ヒヤヒヤの勝利でしたが、それでも勝ち点3の重さは同じ。4連勝達成です。

試合終了後、岐阜サポの前に挨拶に来た大木監督が、仏頂面をしながらも次々と選手に握手をしている姿が、また可笑しくて(笑)。試合後のインタビューでも、普段の“塩対応”よりも喜びがにじみ出ていたような(笑)。一方の讃岐・北野監督の『ここまで出来たのに、なんで負けたのか…』との言葉には、これも深く感じるものが、『それでも最下位チームなのか…』と、改めてサッカーの難しさというか、1試合毎に違う試合展開でも、最後まで同じように戦う必要性を感じる内容と結果でした。

(ささたく)

●帰りの車内で見ていた、試合後の監督のインタビューがすごくマトモでビックリ（ごめんなさい）。実にフツターのやり取りで「いったい、何があった？」と車内で盛り上がってしまった。仲間の一人が「インタビュアーも研究してるんじゃないですか？ウマく話を引き出す感じの質問だったような……。」と。うん、たしかにそんな気がした。もしかしたら、D A Z N 繋がり？で各インタビュアーが示し合わせて、何かやってるんじゃないかな？「大木監督に一番たくさん喋らせたヤツがチャンピオン選手権』とか（爆笑）しかも、インタビュー後にD A Z Nの実況の方も「大木監督、今日はたくさんしゃべってくれましたね。」と。スゴイよ、みんなが同じこと思ってるんだね！

さて、肝心の試合はといえば……。まあ、結果が全て。日程的、コンディショ的に厳しいのはわかってる。しかし、上位進出のためには、とにかく勝ち点を得るコト。それがミッション。そして、そんな状態の中での勝ち点3。最上の結果。十分過ぎです。本当に、やりきってくれた選手達には頭が下がります。繰り返しますが、本当に厳しい試合でした。試合を見た方にはわかっていただけだと思いますが、讃岐の戦術、そして共通認識の徹底っぷりたらなかった。キックオフ直後を除き、とにかく自陣に引きこもる。こちらの陣地内どころか、讃岐陣内のセンターサークルを越える辺りまではウチの選手はフリー。文字通り丸亀？になって、こちらの攻撃を跳ね返します。「これは先取点を取られるとキツイ。逆に、ウチが取れば……」と思っていたんですが、その待望の先取点は後半開始直後。体の強さを活かした山岸のキープ、ドリブルからの柔らかなパス。それをキョーゴが決めて6試合連続。これで優位に立てると踏んだのですが、あに凶らんや。それでも、頭と手足を引っ込めた防戦体勢に変化なし。

1点取られたのは痛い、それも計算の内だったのか。水曜日の天皇杯も含めて、ターンオーバーをほぼやらない大木監督のやり方も含め、コンディションが厳しく、終盤にはウチがガス欠になると読んでいたかのような北野さんのゲーム・マネジメント。満を持して、残り10分で入れてきた原と重松の迫力たるや。かつて、何度となく煮え湯を飲まされた二人の圧力をギリギリのところまでこらえての勝利。この讃岐が最下位という事実。J2というカテゴリーの怖さが如実に表れていると思います。しかし、そんな手ごわい相手に、コンディション厳しい中、勝ち点3を挙げた選手達には、ただ、ただ敬意を表するしかありません。そんな素晴らしい監督、選手から試合後に発信される応援に駆けつけた仲間、それぞれのホームで応援していた仲間への謝辞がとてもうれしい。実にいい雰囲気醸し出されていると思いませんか？

ようやく、順位表を上から、あるいは左側から見始めるのに慣れてきた今日この頃。三島の初スタメンもありました。『岐が被ってるダービー』とやらもありましたね。讃岐は負けても愛称のカマタマーレがあるし、いっそ『カマタマーレさぬ』でも何とかなるかもしれませんが、ウチは『FCふ』です。シャレになりません。本当に勝ってよかった（笑）。

そんな勝利の後に立ち寄る丸亀駅前の『一鶴本店』。うどんの陰に隠れていますが、香川のB級グルメとして定評のある「骨付鶏」を堪能してきました。第二名神の完成で西方面への移動もスムーズになりました。アウェイでの勝利は格別です！思い切ってアウェイにも駆けつけましょう！

（ぐん、）

【ユース】P Pリーグ終了

●我らがF C 岐阜ユースU-18（以下F C 岐阜ユース）は日本クラブユースサッカー選手権東海大会のP Pリーグに参加していました。既にリーグ戦の敗退が決まっていたが、最後の名古屋グランパスユースとの対戦が残っていて、6月3日に磐田市の竜洋スポーツ公園サッカー場にて行われました。結果は0対9の大敗。この結果、今年の東海大会の成績は0勝4敗で終了しました。この後は例年通りで有れば秋にJユース選手権が有ります。

一方の東海プリンスリーグの方は現在中断時期であり、次戦は6月23日に愛知県の口論義運動公園サッカー場にて第6節・名古屋経済大学高蔵高校戦が予定されています。この名経大高蔵高校はF C 岐阜ユースと同じで昨年のプリンスリーグ参入戦にて勝ち上がり、今年から東海プリンスリーグに参戦していますが、第5節終了時点でまだ勝ちも引分けも無いというF C 岐阜ユースと一緒にいる状態。つまり裏天王山（苦笑）ここはしっかり勝って今後のリーグ戦へとつなげて行きたい物です。キックオフは11時。トップチームの試合が夕方から有りますが、十分梯子観戦が可能だと思いますので、是非観戦に行ってください。

頑張れよ、応援しているからな！！FORZA！F C 岐阜ユース！！

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ずJ F A やチームの公式サイトで確認して下さい。（シュナ）